

令和2年度 第3四半期

退職等年金給付組合積立金 運用状況



目次

- ・ 令和2年度 第3四半期運用実績（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- ・ 令和2年度 市場環境（第3四半期）①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- ・ 令和2年度 市場環境（第3四半期）②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- ・ 令和2年度 市場環境（第3四半期）③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- ・ 令和2年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- ・ 令和2年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- ・ 令和2年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
- ・ 令和2年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額・・・・・・・・・・・・・・・・ P11
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P12

令和2年度 第3四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 0.54億円 ※実現収益額
(第3四半期)

運用利回り + 0.09% ※実現収益率
(第3四半期)

運用資産残高 643億円
(第3四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和2年度 市場環境 (第3四半期) ①

各市場の動き (令和2年10月～令和2年12月)

<国内債券>	10年国債利回りは、欧米での新型コロナウイルス再拡大の影響を受けて低下（債券価格は上昇）する場面や米国の追加経済対策への期待から上昇（債券価格は下落）する場面もありましたが、期中を通して、概ね狭い範囲での動きとなりました。
<国内株式>	国内株式は、期初は値動きの小幅な展開が続きましたが、期央にかけては新型コロナウイルスに対応したワクチン開発の進展報道が相次いだことや米国大統領選挙の結果により大幅に上昇しました。期末にかけても、英国とEUの通商交渉の合意や米国の経済対策法案成立などの材料が、株価を一層押し上げ、日経平均株価は30年ぶりの高値を付けました。
<外国債券>	米国10年国債は、10月下旬に発表された米国内の好調な経済指標の発表を受け利回りは上昇（債券価格は下落）しました。その後は、新型コロナウイルスの感染再拡大により、利回りは低下（債券価格は上昇）する場面もありましたが、期末にかけては、議会において追加の景気対策議論が進展し利回りは上昇（債券価格は下落）しました。ドイツ10年国債は、期初は欧州域内での新型コロナウイルス蔓延により利回りは低下（債券価格は上昇）しました。期末にかけては、欧州中央銀行（ECB）が追加の緩和政策を示したことで、利回りの水準は低位での推移となりました。
<外国株式>	米国株式は、10月末にかけて欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大を受け下落しましたが、後にワクチン実用化が進展したことや大統領選の結果を受けて大きく上昇しました。その後は、米連邦公開市場委員会（FOMC）において緩和的な政策運営の継続が示唆されたことも株価の更なる上昇要因となりました。欧州株式は、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、域内での行動規制が広がったことで下落しましたが、期央から期末にかけては、同ウイルスのワクチン接種が開始されたことや好調な米国株式市場にも牽引され株価は大きく上昇しました。
<外国為替>	ドル／円は、期初、欧米での新型コロナウイルス再拡大の影響を受け、リスク回避的な行動から円高／米ドル安が進行しました。その後は、ワクチン実用化への期待や米連邦準備理事会（FRB）が緩和政策の長期化を示唆したことから、更に円高／米ドル安が進み、期末のドル／円は103円台前半を付けました。ユーロ／円は、欧州の新型コロナウイルス再拡大から景気への影響が懸念され、円高／ユーロ安となる場面もありましたが、期末にかけてはEUと英国の通商交渉の合意などを受け、円安／ユーロ高が進行し期末にはユーロ／円は126円台となりました。

令和2年度 市場環境 (第3四半期) ②

○ ベンチマーク収益率

	令和2年9月末～令和2年12月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲0.00%
<国内株式> TOPIX (配当込み)	11.19%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	0.67%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	12.27%

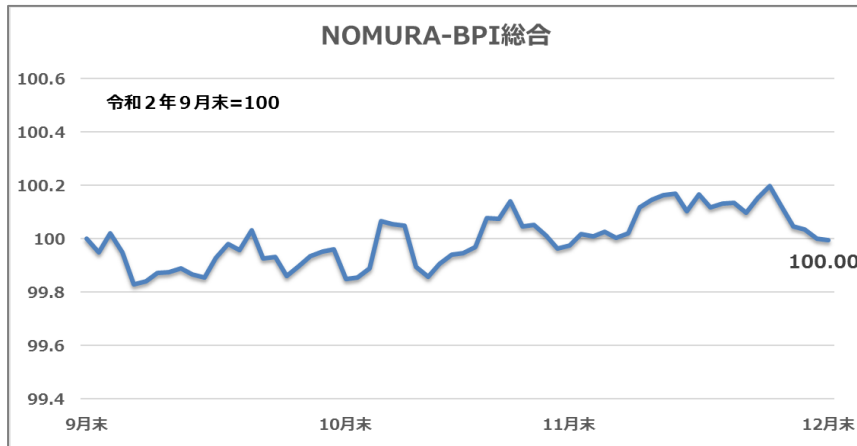
○ 参考指標

		令和2年9月末	令和2年10月末	令和2年11月末	令和2年12月末
国内債券	(新発10年国債利回り) (%)	0.016	0.042	0.032	0.021
国内株式	(TOPIX) (ポイント)	1,625.49	1,579.33	1,754.92	1,804.68
	(日経平均株価) (円)	23,185.12	22,977.13	26,433.62	27,444.17
外国債券	(米国10年国債利回り) (%)	0.684	0.874	0.839	0.913
	(ドイツ10年国債利回り) (%)	▲0.522	▲0.627	▲0.571	▲0.569
外国株式	(NYダウ) (ドル)	27,781.70	26,501.60	29,638.64	30,606.48
	(ドイツDAX) (ポイント)	12,760.73	11,556.48	13,291.16	13,718.78
外国為替	(ドル/円) (円)	105.48	104.66	104.31	103.25
	(ユーロ/円) (円)	123.65	121.93	124.42	126.18

令和2年度 市場環境 (第3四半期) ③

ベンチマークインデックスの推移 (令和2年度第3四半期) ※令和2年9月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

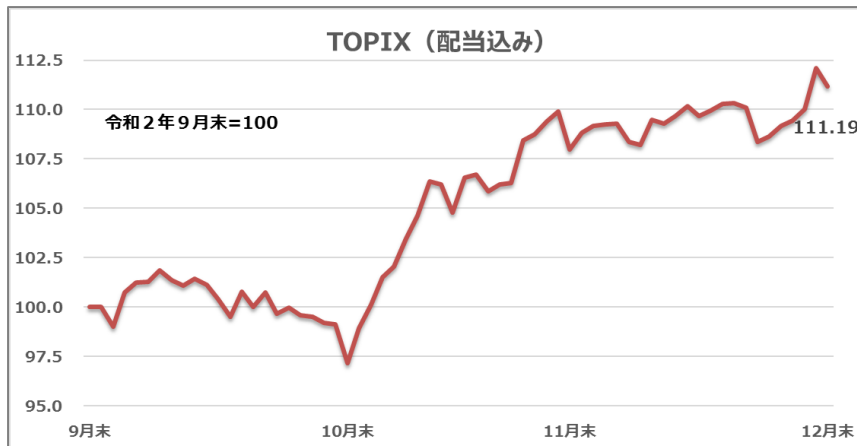
【国内債券】



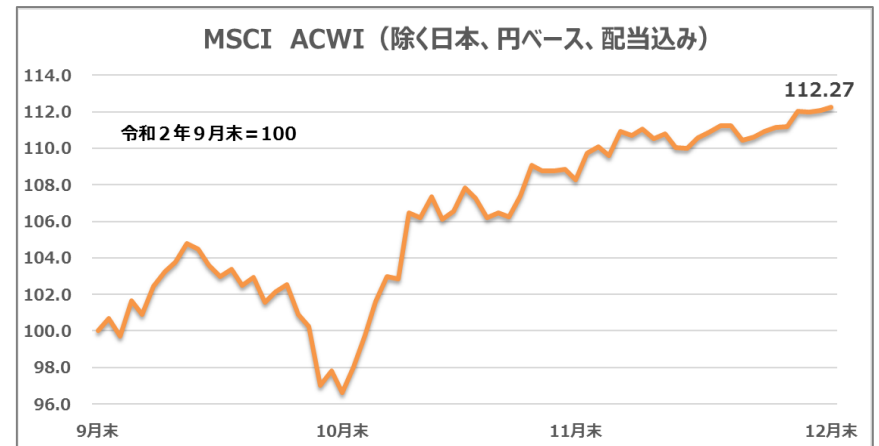
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

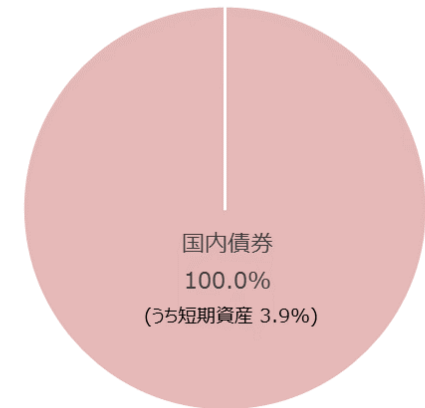


令和2年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和2年度				基本 ポートフォリオ
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	—	100.0
うち短期資産	(3.0)	(2.2)	(3.9)	—	
合計	100.0	100.0	100.0	—	100.0

第3四半期末 運用資産別の構成割合



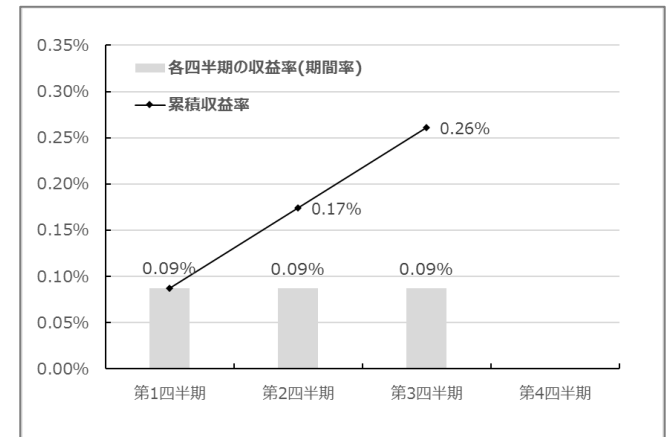
- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

令和2年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和2年度第3四半期の実現収益率は、0.09%となりました。
- 資産別の実現収益率については、国内債券が0.09%となりました。
- 退職等年金給付組合積立金にて保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

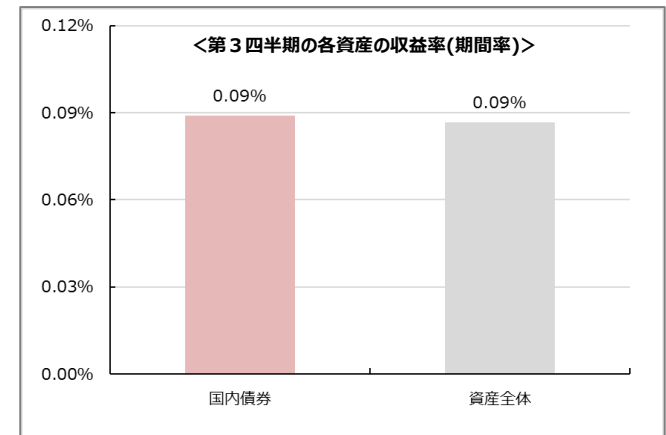
	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	—	0.26
国内債券	0.09	0.09	0.09	—	0.26
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)		(0.00)



(参考)

(単位：%)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲0.34	0.33	0.18	—	0.19

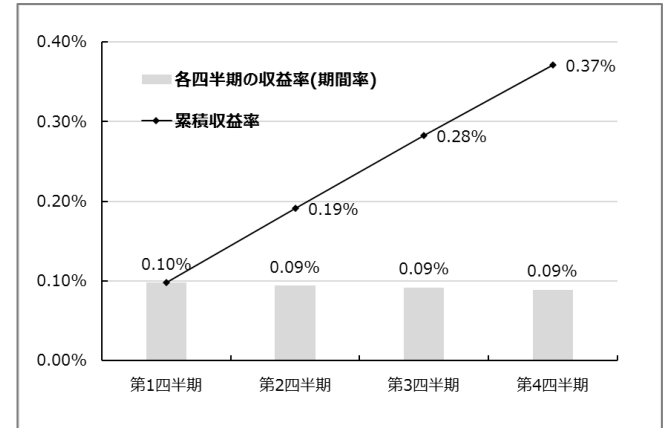


- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
- (注2) 「年度計」は令和2年度第3四半期までの累積収益率です。
- (注3) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
- (注4) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

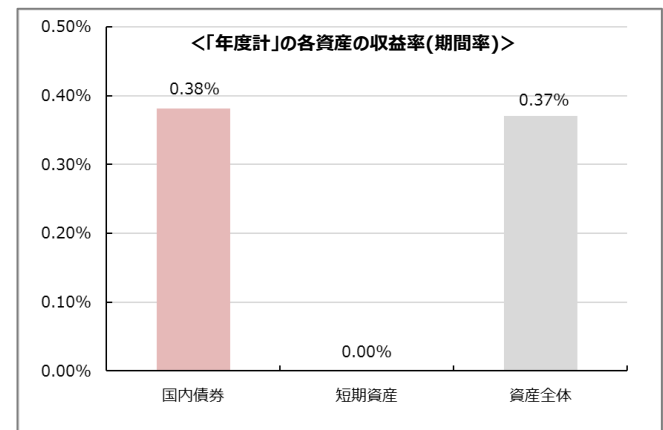
	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.10	0.09	0.09	0.09	0.37
国内債券	0.10	0.10	0.09	0.09	0.38
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



(参考)

(単位：%)

	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.94	0.60	▲0.81	▲0.71	▲0.19



(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

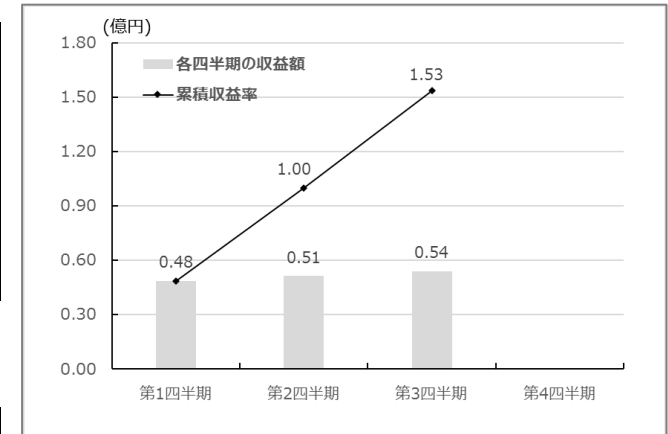
(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

令和2年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

- 令和2年度第3四半期の実現収益額は、0.54億円となりました。
- 資産別の実現収益額については、国内債券が0.54億円となりました。
- 退職等年金給付組合積立金にて保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：億円)

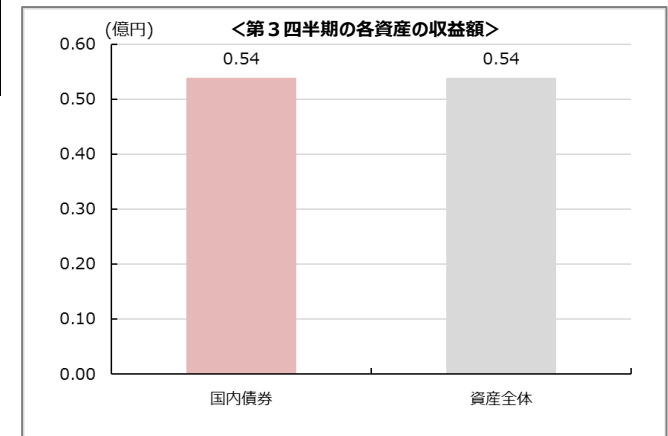
	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.48	0.51	0.54	—	1.53
国内債券	0.48	0.51	0.54	—	1.53
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	—	(0.00)



(参考)

(単位：億円)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲1.91	1.94	1.11	—	1.14

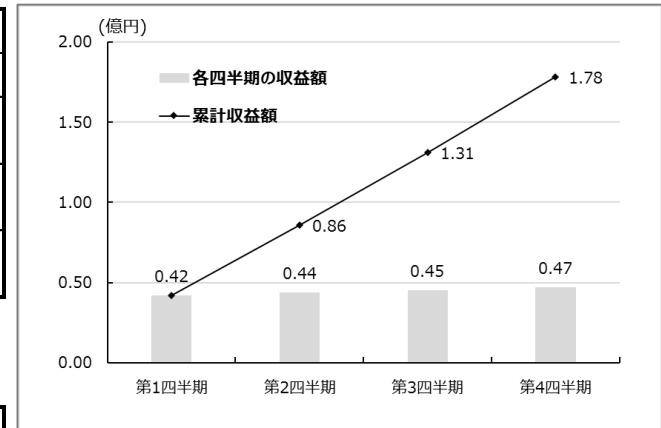


- (注1) 「年度計」は令和2年度第3四半期までの累積収益額です。
(注2) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
(注3) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
(注4) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
(注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

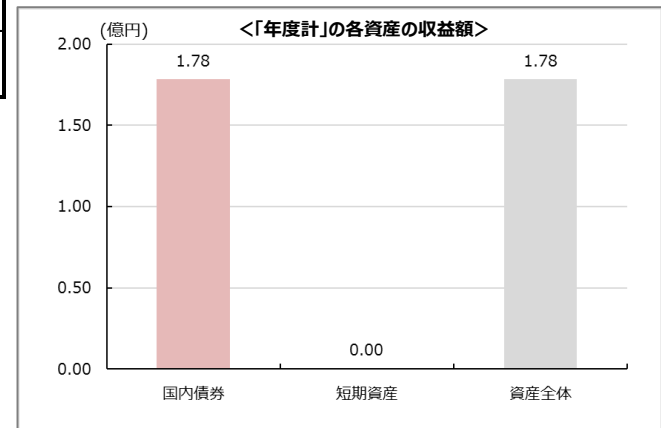
	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.42	0.44	0.45	0.47	1.78
国内債券	0.42	0.44	0.45	0.47	1.78
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



(参考)

(単位：億円)

	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	4.15	2.90	▲4.12	▲3.84	▲0.91



(注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。

(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

令和2年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

今年度

(単位：億円)

	令和2年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	572	577	5	605	611	7	643	650	7	—	—	—
うち短期資産	(17)	(17)	(0)	(14)	(14)	(0)	(25)	(25)	(0)	—	—	—
合計	572	577	5	605	611	7	643	650	7	—	—	—

前年度

(単位：億円)

	令和元年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	433	447	14	469	486	16	498	510	12	526	533	7
短期資産	15	15	0	12	12	0	21	21	0	17	17	0
合計	448	462	14	481	498	16	519	531	12	542	549	7

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和2年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額
(計算式)
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率
(計算式)
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 元本 (簿価) 平均残高
- 総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式) 総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = 総合収益額 / (元本 (簿価) 平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。